

グループ紹介

太田パソコン勉強会

発足して13年目になります。もともとパソコン好きの素人数人が発起人となって太田地区にて立ち上げたのが始まりです。設立時には教育関係の方に非常にお世話になりました。内容的には難しいことはしていません。ワードやエクセル、インターネットなど、主に基礎的なことが中心です。講師によってはかなり高度なものが時々ありますが、その日の課題に挑戦しているうちに知らず知らずに力が付いていくようです。



会員の方は「きらめき講座」の初級を卒業された方から中級を受講中の方、その他さまざまですがお互いに教えあっています。まさに勉強会です。真面目な会に似合



わず新年、春、秋の親睦会もあり、皆さんそれぞれ青春？を楽しんでいます。

会員数は講師を含めて最高30名まで可能です。現在若干名の空きがありますので一度見学に来てください。

例会 土曜日 12:30~15:00
「きらめき」IT室 (月3回程度)
問合せ先 金子 康雄 624-6201
湯浅 勇 625-8714

Mare・Grande

Mare・Grande (マーレ・グランデ) は茨木市を中心に活動しているダンスサークルです。2004年に立ち上げて今年で9年目になります。

踊りにはさまざまな種類があり、日々進化しています。時代の流れに沿いながら踊ることの楽しさを人に伝えたい、体の中から発するような踊りをいつまでもすてきな仲間達と踊りたい、そんな想いで立ち上げたダンスサークルです。世の中の環境が急激に変化する中で、時間に追われ大切なものを見失いそうになるときがあります。そんな時代の中でダンスを通して仲間と助け合うことの喜びや、一つの事をやり遂げる達成感を体験することは、それぞれの「生



きる力」となり、どのような逆境にも立ち向かっていける心の支えとなると信じています。

練習は週1回、主に金曜日の10時から11時15分まで、生涯学習センターの多目的スタジオで行っています。随時見学、体験レッスンをしていただけますので、お問い合わせのうえ、お気軽にお越しください。

連絡先 吉田 薫 072-620-8864



製管師

なかむら ぎんえつ

中村 銀越 さん

この人に会いたくて

尺八の演奏家として各種の行事や演奏会で活躍され、弟子の指導もされています。また尺八の製管工房「雅楽音堂」(うたねどう)の経営者として、製作・修理にも力を注がれ全国から注文を請けられています。現在、琴古流尺八銀友会副会長、大阪三曲協会理事、茨木三曲協会会長の職にも就かれています。鮎川にある仕事場にお邪魔し、尺八を手に触れさせてもらいながらお話を伺いました。



●尺八との出会いについてお話しただけませんか

母が元東映の映画女優で、小さい頃から母に三味線を習っていました。終戦後、和歌山に疎開していたとき、そこに尺八を吹く人がおられて、その人の尺八を借りて見よう見まねで吹き始めたのが始まりです。7歳の頃でした。先生に入門して本格的に始めたのは18歳からです。それまでは楽譜も見ることがなかったし、勝手に童謡や歌謡曲を吹いていました。一番辛かったのは、練習に時間を割けば、仕事の収入が減ることでした。それでも人の5倍くらい練習しました。朝から晩まで吹いて、唇が切れて尺八に血が垂れていたこともあり。若いときに吹き明かしておいたことは、この年になってよかったと思っています。

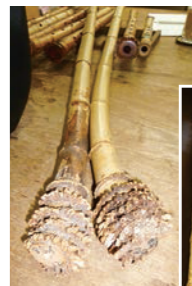
●尺八の鳴らし方と難しい点はどのようなことでしょうか

尺八の音が出る仕組みは極めてシンプルです。舌という割口が付いているので、息をその真ん中に当て、2つに割るように吹けば誰でも鳴ります。尺八には、表に4つと底に1つの穴があります。裏の穴は押さえても離しても同じ音です(特別な使い方をしますが)。これが日本の音階の5

声音階(ロツレヒハ)に合っているのです。尺八は一寸おきに11種類ありますが、一尺八寸(名称の語源)の音が邦楽の基本となり音越いちこつといひます。音階は普通2オクターブ半出ます。音域が広いので、自分がいつも正しい音程を出しているか認識する必要があります。演奏するときは、息の強さや姿勢まで気を使います。

●「雅楽音堂」で尺八の製作もしておられますが

演奏家よりも作るほうが生業です。尺八にする竹は真竹という竹を使います。良い竹を見つけるのが大変で、100坪の竹藪から使えるのは1本ぐらいいです。根っこのほうを使い、油抜きをして、天日に50日干して、6年間ほど寝かせます。そして、火に炙りながら節間を矯正して真っ直ぐにします。小学校の3年生くらいから、竹細工で土産物を作って小遣い稼ぎをしていました。それが竹の性質を見抜く力に役立っています。



尺八にする竹



完成した尺八

●今一番ご苦労されていることは何ですか

何よりも、自分の聴力を安定させることです。尺八を製作する立場として、自分の耳の感度を鈍らせないようにすることは、何よりも大切なことだと思っています。私は2つの音叉おんさをいつも聴いて、微妙な音の差を聞き分ける訓練をしています。



邦楽名演会の舞台(オークシアター)

製作中

エッセイ「愛犬モコと私の時間」
第46回 小川 照代
君が我が家に初めて来た日、何とも言いようのない寂しげな視線で地面ばかり見ていたね。生まれて1、2カ月で飼い主が何回かわってしまつたつらい体験をした君をとても不憫に思った。
次の日、冬の柔らかな陽光を全身に受け小さな体をさらに丸くして夢中で疾走していたね。その小さな胸の中で何かが吹っ切れたのかな。なんとか元気づけようと車の助手席に君を乗せたら、私の顔をじっとみつめていたね。「これからは、ずっと仲良くしようね!」と私は語りかけた。それから毎日、毎日一緒に散歩に出かけたね。でも年月が経ち、楽しい日々も終わりに近づいてしまった。最後の別れの朝「ありがと」と眠っている君に語りかけた。すると閉じていた目がすっと開いた。「ありがと! 僕も楽しかったよ」と言っているようだった。涙を浮かべているような君の目の平でそつとなでた。私は約束通り、一杯愛情を降り注いだ。そして君も私の思いに全身で応えてくれたね。「ありがと。天国できっとまた会おうね。」